

授業と講義で「創り」を伸ばす(1)

How to foster TSUKURI(Creation) in the Lessons and Lectures

弓野 憲一

Kenichi YUMINO (E-Mail: yuminoocn@etude.ocn.ne.jp)

(弓野教育研究所)

YUMINO Institute of Education

<要旨>

これからの社会で活躍できる児童・生徒・学生の能力・資質の育成には、「学び」のみではなく、「創り」を志向した「授業」、「講義」を欠かすことはできない。それらの実現のためには、「創り発問」が決めてとなる。

<キーワード> 学び、創り、学習、課題発見・解決、創り発問

1. はじめに

人工知能の急激な進展の影響を受けて、ここ 20-30 年の内に、何割もの職業が消滅するという。そのような社会を生きる子どもには、これまでの基礎・基本の確実な習得の他に、どのような知識・スキル・能力を育てればいいのか。世界の先進国では、①ある事柄に関する知識の伝達だけに偏らず、学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育。②子どもたちはそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得。③そして、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていけるような力の育成が教育目標にあげられている(平成 26 年 11 月 20 日の中央教育審議会)。三つの教育目標を達成するためには、日本の教育を特徴づけている「学び」の拡張が必要と思われる。

2. 「学び」と「創り」

「学び」の語源は「まねる」にあるという。学ぶことの第一義的な意味がまねるにあるとすれば、まねる人とまねられる人(対象)が必要になる。その対象には、言葉、新し

い知識、行動、スキル、価値、好み等々が含まれる。人はそれらの諸対象を教師・親・家族・友人・社会を通じて、さらには本・教科書・各種のメディア等を通じて獲得していく。

「作り」と「創り」の動詞形は「作る」と「創る」である。英語では"make"と"create"に当たる。モデルをまねて作品を描いたり、設計書に従って「もの」を完成したりするときには、通常は「作る」という語が用いられる。しかし幼児のブロックを用いたタワーづくりであっても、他人の作品をまねたのではなく、その子独自のイメージによってそれを完成した場合には、「創る」という語が用いられる。このことから、創りには、他の人のまねではなく作者独自の何か加わったものであることがわかる。「学び」と「創り」の特徴を表 1 に示している。

3. 「学習」と「学び」および「創り」と「上記の教育目標」との関係

日本も含めて東洋の教育では、「学び」が強調される。しかし、西欧先進国の「学習」は、「学び」の上に立った「創り」で完結する。日本の教育で、上記の三つ目標を達成するには、創りに踏み込んだ「授業」と「講義」が必須である。

表1 「学び」と「創り」の特徴

	学び	創り
①新しい学問や新科学技術の創出		
	内包しない	内包する
②学習の効率	高い	低い
③教材の真偽	全て真	真偽の判断必要
④知識の範囲	狭い	広い
⑤知識の忘却	起きやすい	起きにくい
⑥学習に対する責任	低または中	高い
⑦知識に対する自信	低い	高い
⑧自己 (I) の関わり	低い	高い
⑨議論の必要性	無	有
⑩議論に使える知識	あまりない	たくさんある
⑪創造性の伸張	期待できない	期待できる
⑫思考の範囲	狭い	広い
⑬仮説の設定	あまり必要なし	必要である
⑭仮説を検証する方法	既知の方法	新たに必要
⑮推論のレベル	低い	高い
⑯場の雰囲気	厳粛	自由・のびやか

4. 「創り」の能力を伸ばす講義と授業

・創りを志向した授業と講義では、「あなたの意見は?」、「なぜそのように思うの?」、「その結論の根拠は?」、「あなたらしい表現は?」、「どの点を工夫したの?」、「もっといいアイデアがないかな?」、「どうすれば地域に貢献できるのかな?」、「なぜ?」、といった教師の質問が、たびたび出る。

・創りを志向した授業では、創りを促す発問「創り発問」を工夫する必要がある。

<創り発問の例>

・試合であがらない具体的な方法を、試合前と試合中に分けて、たくさん考える。

・議論の勝敗が、後の人間関係の悪化につながらないようにする教師の配慮を検討する。

<引用文献> (弓野ら著):『アクティブな「学び」と「創り」のデザイン』Kindle Book.
弓野教育研究所 HP (<http://dyumiken.com/>)

・この物語が、この後どうなるのかを、考えてみよう?

・台風の後で、田の広さをめぐり争いが起きないようにするには?

・一日の気温はどのように変化するでしょうか?

・複雑なこの立体の体積を求める方法を、できるだけ多く考えてみよう。

・ここにガラス瓶があります。ふたが固くて開けることができません。どうしたらふたが開くかをたくさん考えてください。

・これから、こういったロボットが必要とされますか?

・超大型津波から、地域が生き残る具体的な方策をたくさん考えてみよう。